手づくりの知恵を学び居場所を作ろう！

いのちとくらしのフリースペース ねまりや建ち上げの会［新潟県佐渡市］

テーマ

子どもと共に手しごとから暮らしのいのちを発掘する

活動の概要

昔ながらの暮らしの場-家-を、世代を超えて協力しながら手しごととして建ち上げることにより、子どもたちや若い世代に「命ある学び」を体験させることを目指した。

設立年月　2009年10月
メンバー数　25人
代表者名　原田 雅代
連絡先
〒952-1213
新潟県佐渡市平清水826-5
原田 雅代
tel　0259-63-3848
fax　0259-63-3848
URL　http:// d.hatena.ne.jp/nemariya77/

わたしたちについて

新潟県の佐渡島にて子育て中の20代～40代のメンバーによって構成された、フリースペースを運営しはじめている団体です。昔ながらの暮らしに息づいている手しごとから、くらしのいのちを発掘し、それらの意義を広げてゆくための集いの場づくりを展開しています。

活動に至った理由や背景

私たちは5年間にわたり、保育サークルとして親子が集まり、自由に遊ぶことを中心に活動をしてきましたが、子どもたちが大きくなると共に、昔ながらの暮らしぶりがまだまだ残っているこの佐渡島で、それを子どもたちに伝え、残して行きたい、そんな学びを得られるような空間を自分たちの手で作り上げたい！という想いが湧きあがりました。そして立ち上がった構想が、「いのちとくらしのフリースペースねまりや建ち上げの会」です。

大自然に囲まれたこの島でも、他の地域と同じように少子高齢化が進み、便利で敏速な時代の流れに従う暮らし方に重きを置く傾向にあります。その一方で、長い歴史の中で培われた「手しごと」は消えつつあります。しかし、そうした「手しごと」の中にこそ、世代を超えた「ふれあい」があり、「生きるための知恵」が息づいています。

「命ある学び」を、子どもたちや若い世代の親御さんたちに体験してもらいたい。そして、毎日の暮らしの中に、それらのことに気づいてもらえるような活動を起こしたい。そのために、まずは暮らしの場、家を作るところから始めてみようと思いました。

ねまりやになる予定の建物の近所には、定年退職されたものの、まだまだ働き盛り（佐渡では80歳まで現役です！）のおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいらっしゃいます。そんな方たちから教えを頂けるのは「今しかない！」と思い立ったのも、この活動を始めたきっかけです。

活動内容

牛小屋の改修

○基礎の修繕

元牛小屋だったので、地面中央が極端にくぼんでおり、土壁や石を投入して平らにするところから始めました。

次に、長年降り積もった杉の葉が土になって溜まったものを取り除き、外からの雨水の侵入を防ぐために、穴を掘ってブロックを埋める作業。さすがに子どもたちは穴掘りが上手でした。

○水平出し

建築に重要な水平出しを、昔ながらの水とバケツを使った手法でやってみました。さすがに誰も使い方がわからず、子どもたちともども理科の実験教室になって、楽しかったです。なかなか水平が出ませんでしたけれど。

○動柱

イメージした間取りに合わせて柱を動かしました。場所によっては抜いてしまったり、新たに建てたり。人数が少ない時は大人が柱を持ち上げ、子どもに「ほぞ」にはめてもらったり。柱を抜く時はジャッキで屋根を持ち上げるのですが、小屋全体がみしみし音を立てるので、「こわーい！」と大騒ぎでした。

部屋の真ん中の柱を抜く時には、地元の建設業者さんの協力のもと、「トラス工法」を教えて頂きました。この業者さんには解体材を提供していただいたりもして、縁の下の力持ちさんに出会えて感謝です！

○敷居・鴨居の取り付け、溝掘り

中古材にはカンナ掛け、新古材には溝切りなど、大工の本格作業が始まりました。子どもにはカンナ掛けは難しく、その間ノミを使ってヌキや敷居、鴨居の溝掘りをがんばってもらいました。この作業は親子ともに夢中になり、誤って手を打ってしまう子どももいましたが、最後までやり遂げる子が多かったです。

新築工事ではないので、寸法がなかなか合わずに、やり直しを繰り返し、苦労しました。

ボロボロで、ゴミだらけの、おそらく 15 年は使われていなかったであろう代表宅の牛小屋を、伝統技術専門学校の建築学科 1・2 年生の学生さんと共に一年をかけて改修しました。

元牛小屋の中には、トラクターや母屋を立てた時の材木、一升瓶、豆炭やら農業資材などがぎっしり詰まっていました。色んな人の手を借りて、片付けしたことが懐かしく思い出されます。

○建具の取り付け

これもまた中古建具を使っているので、寸法が合わず…。あーでもない、こーでもないとやっている間、子どもたちにはガラスを洗ったり、拭いたりしてもらいました。窓や扉がつくと、「なんか家みたーい！」と子どもたち。「家つくっとんねん!!」。何を作っていると思っていたのでしょうか……。

○床の根太、床板張り

根太に使う角材も中古材で、高さを合わせるのに苦労しました。長さが足りず、途中で継いでみたり、薄い板を挟んでみたり。子どもたちは出来上がったところから、平均台として遊んでいたり、お風呂に見立ててみたり。想像力満開です。寸法勝負なので、子どもたちは出る幕なしでした。残念。

床板も中古を使い、これまた苦労。隙間ができないようにパズルです。

根太、床板ともに、完成品はとても美しく、日本人の心の豊かさを垣間見たような気がしました。日本建築は素晴らしいです。

以上の建築作業は、天気や工程に左右され、流動的でした。専門学生とはいえ、まだまだ半人前。初めての作業もあり、子どもも一緒に作業するので、みんなで楽しく学び合えた1年となりました。わからないところは業者さんや専門学校の親方、隣のおじさんに相談し、工具も貸してもらったりして、世代を超えたつながりが広がりました。

子どもたちにも、家ができるまでを見届けてもらうことができ、とても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

土壁づくり

元々あった土壁を崩して再生させました。ご近所の元左官職人さん（76歳）にお手伝いを頂き、昔話を聞きながらの工程でした。

○土コネ

まずは石やごみを手で取り除き、ふるいにかけます。納屋の奥に眠っていた竹製の穴の大きなざる（てみい）を使い、子ども4人が一生懸命にふるってくれました。その土埃がすごいこと！　ふるっては「きゃー！」、ふるっては「きゃー！」と逃げ惑ってばかりで、作業は進みません。

次に、ふるった土を山型に盛り、水を入れて素足で踏みこなします。

素足で踏みこみ、泥だらけになって仕事をしてくれました。

若いお母さんたちも「泥パックで足がきれいになるねぇ。」などと話しながら勤しんでいました。気がつくと泥団子ならぬ泥ハンバーグに花飾りがそえてあり、「これで充分」といった遊びとなっていました。

○藁切り

中華包丁よりもはるかに大きな刃のついた藁を切る道具「わらきり」を使って、5センチほどに藁を刻みます。これは小さな子どもが興味津々で、恐る恐るながらも母親と一緒に「ざくっ、ざくっ」と夢中で切っていました。

この藁を土に混ぜ込み、さらに踏みこねます。だんだん足が重一くなっていきますが、この工程を4回転。土のお陰で心地よい疲れとなりました。

○発酵

一週間ほど寝かせて発酵させる予定でしたが、田んぼの作業と重なり、なんと1カ月ほども寝かせてしまいました！ですが、左官屋じいちゃん、「なーんともねえ！」と一言。

○竹小舞掻き

古い竹小舞と藁縄を使い、網目状に竹を組みます。土壁の土台というか、糊のような役目を果たすものです。

大人が基本となる竹を組み、子どもが藁縄を編み込んでいく。竹のささくれで手をこすってしまうのですが、出来上がりを楽しみに、子どももがんばってくれました。やはり、単純な繰り返し作業の方が子ども向きなのかもしれませんね。

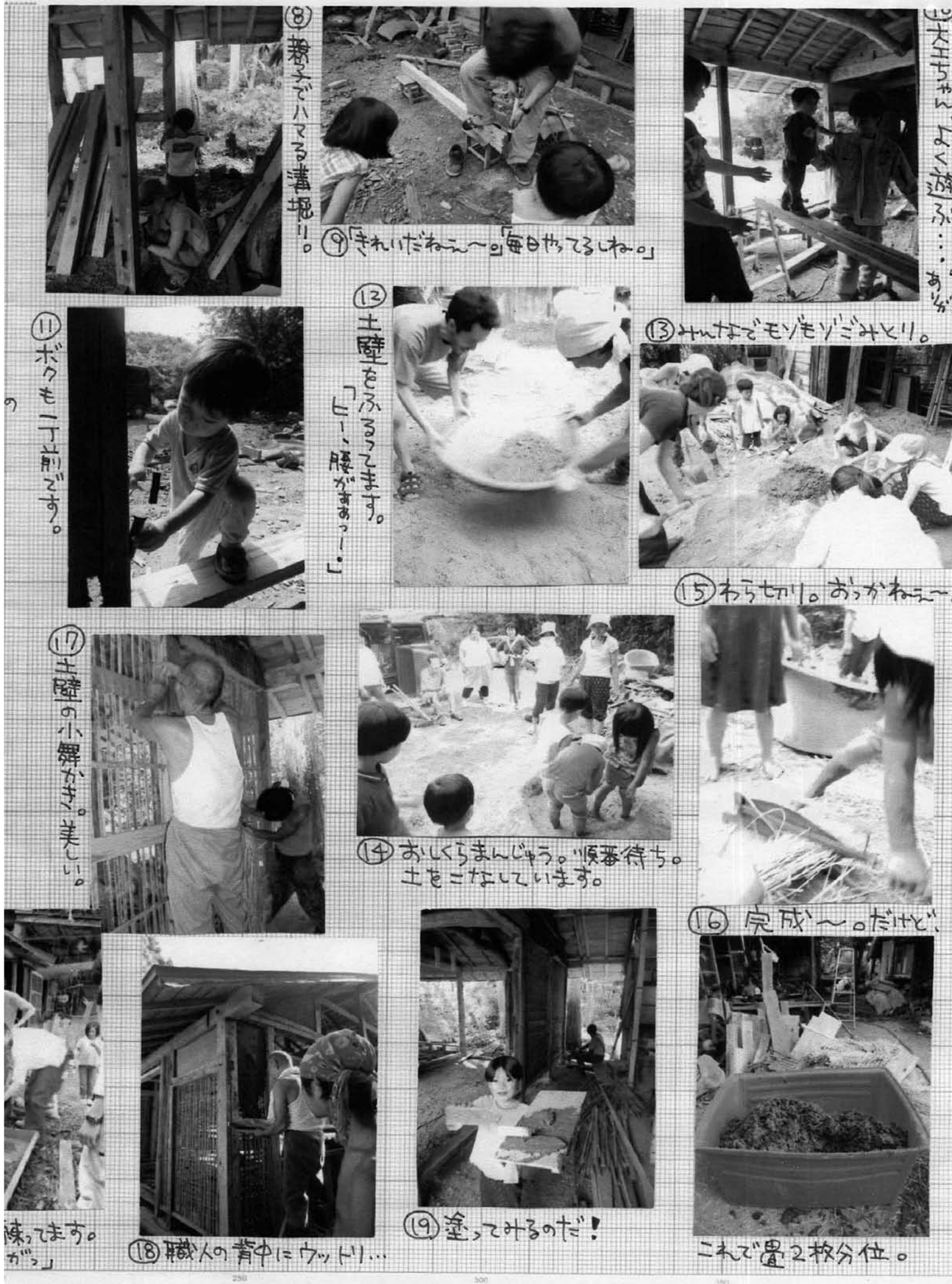
○壁塗り

一回目は左官じいちゃんが、あれよあれよと言ってる間に一人で塗ってしまいました。

じいちゃん、「久しぶりだのう！」とつぶやきながら楽しそうに塗って、畳一枚塗るのに10分かかっていませんでした。

「子どもにゃぁ無理だっちゃー！」、がっくり。しかし、塗るところはまだまだあるので、次回にチャレンジ。

そして二回目。子どもたちには素手で大雑把に塗りつけてもらい、大人が細かい所や平らにする所を分担して塗りました。やはり、手から顔からお腹から、泥んこになって夢中になってぺたぺた塗っていました。小さな子どもにコテを持たせると、塗った端から切り込んでいくので、幼児にコテは必要ないと思います。



子どもたちもかあちゃんも、みんな素足で土コネです。

土壁ワークショップと題して4日、気軽に集まった仲間で2日、土壁作業を行いました。後の2回目の時は左官屋じいちゃんは不在で、自分たちだけで行いましたが、昔ながらの作業のシンプルさゆえに、難しくはなかったです。

土壁を使って内装も手掛けたかったのですが、時間が足らずできませんでした。本当は漆喰まで手作りするはずでしたが、それも間に合いませんでした。しかし、土壁には創造の可能性がふんだんに含まれていることを知りました。これは、今後のねまりやの必須アイテムとなってゆくことでしょう。

○土壁アースオーブンづくり

土壁と石を使って、ピザが焼けるオーブンを作りました。1回目は土台となる石を積み上げました。隣村の庭石のプロ（64歳）にボランティアでご指導に来て頂き、佐渡在住のブラジリアン左官職人と、子どもたちとで始めました。大人が石を積み、子どもたちが土壁で隙間を埋めていく作業です。時折ビー玉や貝殻を埋め込んでみたりして、可愛いオーブンとなりました。石と石の間に入れる瓦を金槌で細かく砕いてもらう仕事も、子どもたちに人気でした（完成後、乾燥に1週間かけます）。

2回目、耐火煉瓦を積んで火焚き場を作りました。これは左官仕事なので大人の仕事となりました（これも乾燥に1週間）。3回目、いよいよ土壁を使ってドーム部分を作ります。中央に石と砂を山型に盛り、その上に土壁と瓦を乗せていくのですが、砂がぼろぼろとこぼれていくのを止めるのが大変でした。子どもが板を持って砂を押さえこみ、大人が砂を盛っていく。大人も子どもも必死です。白熱しました。

最後に濡れた新聞紙で押さえ、側面から練った土壁を塗っていきます。今回はワイルドな仕上げで構わないので、子どもたちもコテを持つことができました。最後に煙突を差す筒を付けて完成（またまた乾燥に一週間です）！

いよいよ火入れ式。少しずつ窯の様子を見ながら火をくべていきます。子どもたちは煙がのぼるようすをきらきらした瞳で見つめていました。ひびが入るだろうと予想していたのですが、耐火セメントや草木灰を土壁に少し混ぜておいたため、一筋のひびも入らずに済みました。

完成記念に、ねまりや建ち上げの会メンバーでピザパーティーを催しました。それはそれは、あたたかく、もちろん、美味しかったです。「お家の壁に使う土壁で、料理の道具もできるなんて、土ってなんでもできるんだね。すごいね！」と、子どもたちは感心していました。火をくべる時も、男の子たちはこぞって薪を運び、くべてくれました。女の子はもっぱらピザづくりに熱中していました。

自分たちの手で作り上げた窯を使っての料理。子どもたちの未来に、どう反映してゆくのかが楽しみです。この窯づくり、子どもを交えての収入源になるといいなぁ！なんて。

成果

廃墟と化した建物をリサイクル材で再生し、自然の素材を集め、調理道具を作り、出来上がった空間で、遊び、食し、集う。年齢の枠を超え、知恵を出し合い、学び合い、笑い合える。きっと200年も前の日本では、ごくあたりまえだった暮らしの風景が、こんな時代の、このねまりやの空間に広がりつつある。それを、子どもたちにも経験させられたことが、なによりの成果です。

お年寄りから、幼い子供どもたちへの昔話、季節とともに進んでゆく仕事や暮らしのお話は、是非とも再現したい、貴重な会話となりました。

様々な分野の人々が集まり、それぞれの能力を活かし、それぞれに知恵や技や喜びを持ち帰ってゆく。そんな懸け橋を渡すことができた1年でした。技術的にも、それぞれの幅の広がりを体得できた活動であったと思います。

地元の伝統技術専門学校や、建設業者さんといった方々に趣旨を理解して頂き、御協力を得られたことも、大きな成果です。廃材や技術を提供して頂き、ねまりやの幅も広がりました。今後もご協力頂き、さらに発展してゆけることと思います。

ご近所の方々も、噂を聞きつけて覗きに来てくださったり、「今度、料理の講師、お願いしますねー。」と声をかけると、「おもしろそうだなー。いいことだっちゃー！」と今後の活動を楽しみにしてくれています。通りがかりに、「あんなこともできる、こんなこともできるぞ！」とアイデアを落としていってくださる方もいらっしゃいます。

想定外のこと

◎予想していたよりも人の集まりにバラつきがあり、工程を一貫して伝えることが難しかったです。

◎子どもが手を出せない作業もあるということがわかりました。

◎リサイクル材を解体現場から直接調達して頂いたりもしていたので、予定がずれ込むこともあり、工程が変更となることもありました。

◎古い建物なので、柱の歪みがたくさんあり、やり直しが多々あり苦労しました。

◎工程上の相談などを持ちかけたことにより、建設業者さんのご協力のもとに、材料や技術の幅を広げることができました。

◎この冬は大雪であったため敷地内に入ることができず、冬場予定していた作業に全く手がつけられませんでした。

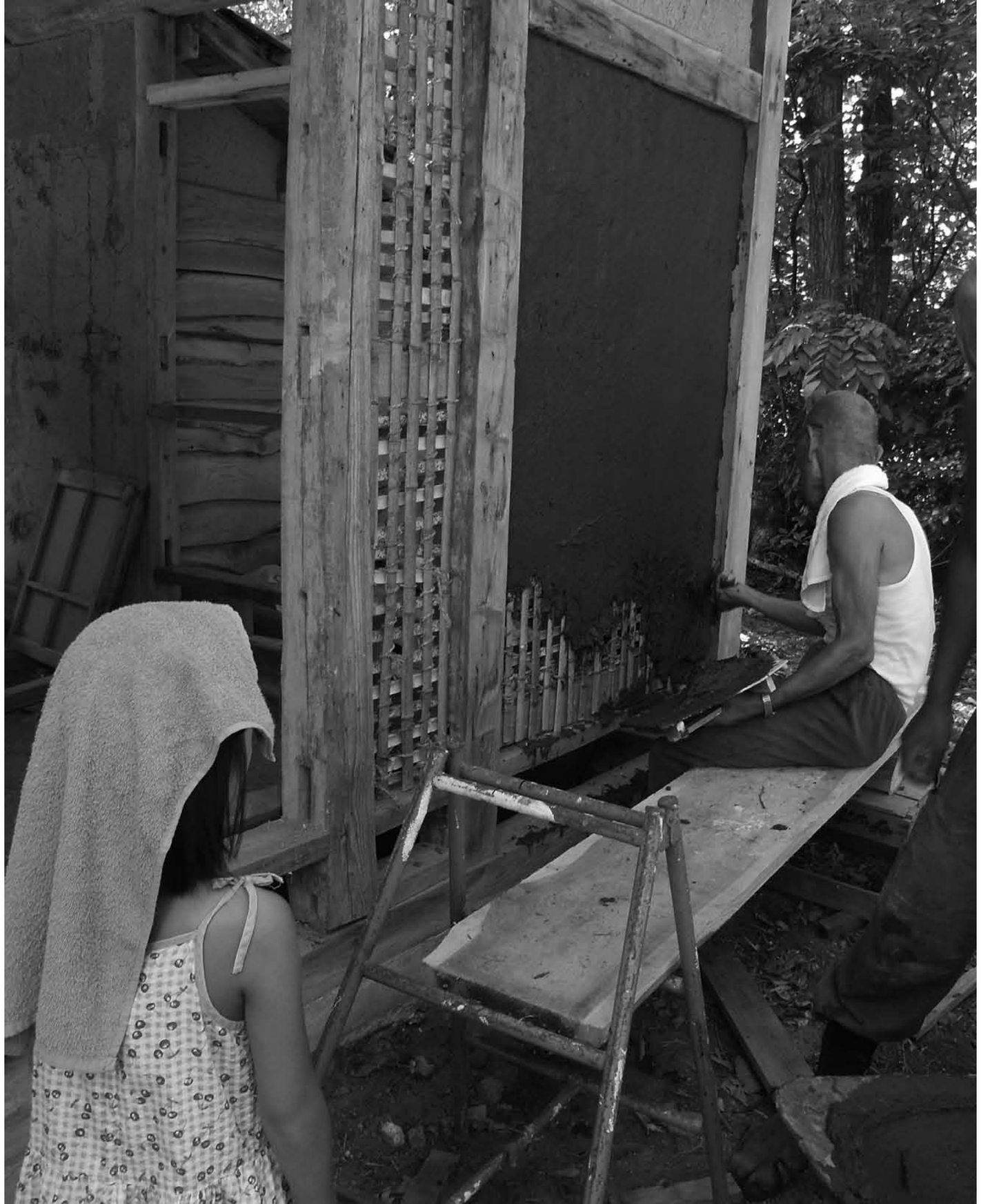
当初予定とのちがい

◎建築作業が予定通りに進まず、「森林WS」や「漆喰づくりWS」までは手が回らず、開催できませんでした。

◎「かまど」の予定が「オーブン」となりました。したがって、「味噌づくり」が「ピザづくり」となりました。

◎建築講師を村のおじいちゃんにお願いしていたのですが、都合により急きょ専門学生に引き継いで頂きました。

◎子ども専属の「プレーリーダー」を予定していましたが、子どもの集まりにも、工程にもばらつきがあったため、また講師陣が若く、遊びの感覚で子どもと接してくれていたため、必要なしと判断し、配置を取りやめました。



「わたしもやりたいんだけどな〜」「まぁ、見とれっちゃ。」久しぶりの土壁塗りを楽しむ甚九郎じいちゃん。10分もかからずに塗り上げてしまいました・・・。

課題など

この1年間は、一定の枠の中で関連をつけることができましたが、今後はもう一歩前に出た広がりをつけたいと思います。

村の方々や子育て中でない方にも、もう一歩踏み込んでもらえるような、さらに身近な、いつでも手に取れるような、暮らしに寄り添ったところの手しごとを通じて、交流を深め合える場づくりを展開してゆこうと計画しています。身近な分野で、コンスタントに交流することによって、人と人とのつながりにも深みが増し、利用者のニーズにも応えやすくなるのではないかと考えています。

この1年間は、計画をこなすことに精一杯で、広く告知をすることができなかったので、コンスタントに広く、情報を発信できるように努めたいと思っています。写真の記録がなかなか難しいです。

ワークショップや飲食の提供などでの収益にも力を注いでゆかねばならないと、思案中です。もう少し、心の余裕が欲しいところです。

今後の予定

◎すでに「森の中の子育てサロン　ねまりっこ」として毎週金曜日に集まりを催しています（施設使用料一回200円です）。
◎今後、食品衛生の申請許可が下り次第、飲み物やランチを提供していく予定です（秋頃の予定）。
◎建物の冬支度が整い次第、月4回のペースで月謝制の「手しごと塾」を始めます（秋頃スタートの予定）。
◎季節ごとの地元料理WSやマクロビオティック料理WSを子ども向けに月2回 開催します。
◎佐渡市子育て支援課の「こどもの居場所づくり助成事業」に申し込み、スペースを拡張します。お手洗いがまだないので。
◎現在、東日本大震災によって佐渡へ避難されて来ている方たちとの交流会を不定期ではありますが催しています。皆さん、とても喜んでくださっています。